

創刊35周年を迎え、ますます面白く。

季刊

# 中医臨床

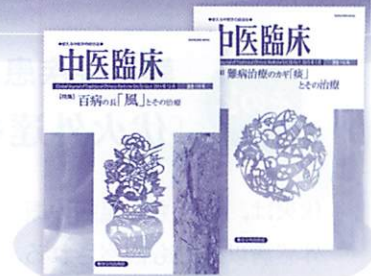
CLINICAL JOURNAL OF TRADITIONAL CHINESE MEDICINE

- 定 価：本体 1,571 円+税 送料 210 円
- 1年予約：本体 1,571 円+税 4冊 送料込
- 2年予約：本体 1,500 円+税 8冊 送料込
- 3年予約：本体 1,429 円+税 12冊 送料込

【巻頭インタビュー】ニッポンの中医臨床

139号 中国医学でがん治療に挑む (小高修司)

140号 中医学と日本漢方に違いはない (三浦於菟)



1970年代以降、日本に現代中医学が導入されてから40～50年になろうとしているが、果たして日本の臨床に中医学はどの程度根付いているのだろうか。日本全国で中医学を実践する医師を『中医臨床』編集長が訪問して、「中医学との出会い」「中医学の魅力」「臨床応用の実際」などについて伺い、臨床面における日本の中医の実態に迫る企画。

【第1回】は、小高修司先生。小高先生は特にがんの

中医治療で豊富な経験を積んでいる。中医学によるがん治療の方法とポイントを中心に尋ね、「コタカ式」がん治療の一端を示していただいた。

【第2回】は、三浦於菟先生。三浦先生は中国医学を勉強するのであれば、中医学と日本漢方の両方を学ぶよう述べる。臨床では使いやすい古方から入って、「なぜ?」「どうして?」と疑問が湧いたら中医学の本を読むとよいなど、漢方入門の方法も示していただいた。

- 通巻137号：【特集】不眠症の中医治療——名老中医の経験に学ぶ
- 通巻138号：【特集】鍼薬併用
- 通巻139号：【特集】百病の長「風」とその治療
- 通巻140号：【特集】難病治療のカギ「痰」とその治療

近日発行 6月号(通巻141号)では、「難病治療のもう1つのカギ『瘀』とその治療」を特集します。

注目記事

【日中経方サロン】(138号)

日本漢方と中医学の思考法(黄煌) / 日中の方証相對の異同(加島雅之)

中国における経方研究のリーダーの一人、南京中医薬大学の黄煌先生を交え、日本の中医・漢方専門家とともに、「経方」を主題に意見を述べあう「日中経方サロン」コーナー。

黄煌先生は日中双方の伝統医学の多様性を解きなが

ら、経方研究の重要性を強調している。一方、加島雅之先生は日本の吉益東洞の方証相對と、中国の柯琴や徐大椿の方証相對の違いについて、思想的背景から迫ってその相違を際立たせている。

詳しくは当社ホームページをご覧ください。

<http://www.chuui.co.jp>



東洋学術出版社

ご注文は、メールまたはフリーダイヤルFAXで

FAX.0120-727-060

〒272-0823 千葉県市川市東菅野1-19-7-102 / 電話047-321-4428 / E-mail:hanbai@chuui.co.jp / ホームページ●<http://www.chuui.co.jp>

# 最近号の読みどころ

その1

エボラ出血熱に中医学が挑む。

「西アフリカ・シエラレオネで中医がエボラ出血熱を治療」杜寧 (140号)

西アフリカでエボラ出血熱が大流行している。WHOによると2015年3月4日現在、エボラ出血熱の患者23,969名、死亡者9,807名と発表されている。患者は西アフリカのギニア・リベリア・シエラレオネの3カ国で突出しており、その他、マリ・ナイジェリア・セネガル・スペイン・イギリス・アメリカなどで症例が報告されている。現時点で承認されたワクチンや治療薬はなく、蔓延を阻止するために世界各国から支

援の手が差しのべられているが、米国やEU各国と並び、中国もいち早く現地に医療チームを派遣している。今回紹介するのは、解放軍第302病院が組織した第2次救援医療チームのメンバーとして、シエラレオネの首都・フリータウンに赴いた医療スタッフの手記である。中医処方を用いてエボラウイルス陽性患者45名の治療を自ら経験した貴重な記録である。

その2

難治性疾患に対する中医治療。

「伏火外達を経て治癒した骨髓異形成の1例」木田正博 (139号)

伏火は、もともと温病の概念であるが、傷寒や温病のような外感病以外でも観察される。内傷雑病の場合でも、原因不明の微熱が続いたり突然の強い発熱が裏から生じたりする病態には、伏火が原因として関わっていることが多いという。筆者は、自己免疫病はその代表例で、その他の内傷雑病でも伏火外達はしばしばみられるという。本稿で紹介するのは、気陰兩虚に乗じて外感病が少陰腎に内陷して伏火となり、骨髓

異形成を引き起こした症例である。その後、全身状態の改善とともに、外感を引き金としての伏火外達が可能となり、それを4回繰り返すことによって、この難病が治癒したと考えられるという。骨髓異形成とは、異型血球が血液中に多数出現することにより死に至る疾患であり、白血病に移行する確率も高い。本例の場合は赤血球のみの異形成であり、発病後平均3年で死亡するタイプであったという。

その3

変質した教材を革新し真の臨床家養成を。

「中医思想の魂を取り戻せ」顧植山 (137号)

1956年、上海・北京・成都・広州に中国で最初の中医学院が創設されてから60年になろうとしている。その間、膨大な数の学生が養成されたが、卒業生全体の臨床レベルが期待されたほどではないのはなぜなのか？ 筆者は中医教育失敗の原因は、その教材にあると喝破する。

現在、中国の大学で使用されている教材は、西洋医学を参考に整理・構成されたものであり、『黄帝内経』を代表とする

伝統的中医思想との間には大きな隔りがあると強調する。真に臨床力をもった学生を養成するためには、変質し真実の姿を失った現代中医理論にもとづく教材から、本源的な中医文化の思考法に立ち返った教材に革新しなければならないと述べ、気迫に満ちた論を展開する。取り戻すべき中医思想の魂とはいったい何なのか――

その4

FDA 臨床試験進む。

「肝線維化を抑制する中成薬『扶正化癥片』」劉平 (139号)

2013年秋、上海中医薬大学が研究開発し、米国で臨床試験を行っていた中成薬「扶正化癥片」がFDAの第2相臨床試験を終え、第3相臨床試験に進むというニュースが駆けめぐった。インターフェロン無効の難治な慢性C型肝炎の肝線維化患者に対して線維化の抑制効果が示されたというものである。近年、心臓病の治療薬「複方丹参滴丸」など、FDAの

第3相臨床試験まで進むような中成薬が現れ始めているが、この薬はこれまで西洋薬で対応できなかった分野をカバーするという意味で画期的だという。本薬剤の研究開発者の一人、上海中医薬大学の劉平教授を訪ね、FDA臨床試験の概要、本研究の意義、「扶正化癥片」開発経緯、本薬剤の作用、今後の展開などについて話を聞いた。